



梅雨の終了と共に、あつとつ間に夏の厳しい暑さになりました。急激な季節の変化で、身体が暑さになら慣れていません。扇風機やクーラーなどを適切に使い、子どもも大人も、夏を元気に楽しめたいですね。

RSウイルス感染症



「どんな病気？」
RSウイルスによる呼吸器系の感染症です。1歳以下の感染が多いと言われますが、2歳以上（大人も含む）も罹患します。例年は秋から冬にかけて流行しますが、今年はニュースでも目にするように、すでに大流行しています。
感染経路は、主に「飛沫感染」ですが、ウイルスがついた手で、鼻や口を触ることによる「接触感染」もあります。病気を理解し、予防を心がけていきましょう。

◆劇症化に注意！

RSウイルス感染症の症状は、主に風邪と同じような症状で、大人も罹患します。この感染症の最も気を付けなければならない点は、乳児（特に6ヶ月未満）が重症化しやすいということです。入院を余儀なくされる場合もあります。乾いた咳が繰り返されたり、ぜいぜいと聞こえるような呼吸音、また肩が上下するように呼吸をしているような状況が見られる時には、すぐに受診をするようにしましょう。

◆予防のポイント！

手洗い・咳エチケット

※参照：HP「東京都感染症情報センター」



安全な室内環境

暑さ等で、室内で過ごすことも多いかと思えます。今一度、家庭内の安全を確認してみましょう。

発達の目安	誕生	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月
発達の目安		目がすわる 足をバタバタさせる		離乳食を始める	寝返りをうつ	一人座り	ハイハイをする	指で
事故やけと					・お茶、みそ汁、カップ麺などのやけど ・暖房器具や加湿器でのやけど			
主な起こりやすい事故			・大人用ベッドやソファからの転落 ・抱っこひも使用時の転落 ・ベビーカーからの転落			・椅子やテーブルからの転落		・階段からの転落
車・自転車関連の事故				・チャイルドシート未使用による事故 ・車内での熱中症			・車のドアやパワーウィンドウに挟まれる事故 ・子ども乗せ自転車での転倒 ・自転車に乗せた子どもの足が後輪に巻き込まれる	

上記は、消費者庁HP「子どもの事故防止ハンドブック」からの一部抜粋です。お子様の現在の年齢や活動状況に照らし合わせてみましょう。

窒息に注意！

今年も、窒息にまつわる事故の報道が続いています。前号でも触れましたが、改めて窒息に注意しましょう。



乳幼児だけでなく、就学児・大人も食事をしている際に、危険があります。落ち着いてゆっくり食べる、口の中に詰り込まない等、食べ方も大切です。また、水遊びの際には溺水にも注意しましょう。予防を十分に心がけると共に、いざという時の応急手当も確認しておけるといいですね。（前号54号参照）

熱中症を予防しよう

今年も、熱中症への注意喚起が呼びかけられています。マスクをつけていると、熱がこもりやすく、またマスク内の湿度により、のどの渇きに気づきにくくなり、熱中症のリスクを高くしていると言われています。熱中症の予防もしていきましょう。

マスク着用時、室内ではクーラー等でしっかり空調管理をし、屋外では三密を避けられる状況であれば、マスクを外して、また水分補給をして、熱中症から身を守りましょう。



熱中症は予防が一番！

- 車内に短時間でも一人にしない
- 帽子をかぶる
- こまめな水分補給
- 定期的な休息
- 無理をしない



※子どもの様子を観察し、大人が適切なタイミングで対応しましょう。

熱中症警戒アラートとは

熱中症の危険性が極めて高くなると予測された際に、危険な暑さへの注意を呼びかけ、熱中症予防行動を取って頂くよう促すための情報。

熱中症警戒アラート



熱中症警戒アラート発表時は
熱中症予防行動の徹底を！

運動は原則中止。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動してください。

※参照：環境庁HP「熱中症予防情報サイト」

